

市内医療機関の皆様へ

横浜市保健所長

古賀 伸子

### インフルエンザ患者報告数の増加に伴う注意喚起について（依頼）

日頃から本市の感染症対策に御理解、御協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

本市では、第 16 週（4 月 15 日～4 月 21 日）に、定点医療機関当りのインフルエンザ患者報告数が「2.06」と増加し、流行開始の目安(1.00)を超えたため、注意喚起を目的に公表しました。

- ◆ 市内 12 区で流行開始の目安となる基準（1 定点医療機関当り 1 週間の患者報告数 1.00 人）を超えています（瀬谷区 10.67、緑区 3.83、鶴見区 3.80）。
- ◆ 第 16 週の迅速キットの結果は、A 型 39.3%、B 型 60.7%となり、A 型と B 型の割合が逆転しました。
- ◆ 学級閉鎖等も第 12 週（3 月 18 日～24 日）以降は報告がありませんでしたが、第 16 週（4 月 15 日～21 日）は 4 施設（小学校 3 施設、中学校 1 施設）から報告がありました。また施設での集団感染も引き続き報告されています。

集団発生の多くは職員や面会者による持ち込みが発端となっており、施設に持ち込ませないための対策が重要です。

ご多忙のところ誠に恐縮ですが、各医療機関における持ち込ませない、広げないための「別添」の対応について、ご協力くださいますようお願いいたします。

#### <添付資料>

- 1 別添「施設への持ち込みと感染拡大を防止しましょう！」
- 2 横浜市インフルエンザ流行情報 13 号

健康福祉局 健康安全課

新型インフルエンザ等対策担当

電話：045-671-2445

## 4月25日、横浜市ではインフルエンザ患者報告数が再び増加しました。 施設への持ち込みと感染拡大を防止しましょう！

- ◇ 市内では再び学級閉鎖の報告がされています。
- ◇ 集団発生の多くは職員や面会者による持ち込みが発端となっています。
- ◇ 予防接種を過信せず感染予防策を徹底しましょう。

### 1 持ち込みの防止及び感染拡大防止

#### (1) 職員の健康管理の徹底（予防接種を過信せず予防策を徹底する。）

- ◆ 出勤前の検温の徹底（発熱者は勤務させずに受診させる。）
- ◆ 発熱などの体調不良時は出勤前に必ず管理者へ報告するよう指導
- ◆ 無症状の職員も含めて全員のマスクの着用を徹底（症状が出る1日前からウイルスが排出されます。）
- ◆ 1ケア1手洗い、手袋の使用の徹底

#### (2) 面会に関する注意事項

- ◆ マスクの着用、手洗い又はアルコールによる手指消毒の積極的勧奨
- ◆ 地域の流行状況に応じた面会制限の実施（今後の流行情報にご注意ください。）

### 2 流行情報の確認

横浜市衛生研究所では、原則毎週木曜日に流行の状況に応じて「横浜市インフルエンザ流行情報」を発出します。区ごとの発生動向を公表していますので対策にお役立てください。

- ◆ 横浜市衛生研究所HP（市内の最新の感染症発生状況）  
<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/idsc.html>

### 3 参考情報

横浜市保健所では、「冬の感染症予防啓発」の一環として、保健所ホームページに「手洗い」をテーマに啓発ポスターを掲載しています。

- ◆ 横浜市保健所HP  
<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/hokenjo/hokenjo.html>

- ◇ 自由にダウンロードできますので、施設内での感染予防対策にご活用ください！！



# 横浜市インフルエンザ流行情報 13号

横浜市健康福祉局健康安全課 / 横浜市衛生研究所

## インフルエンザ患者報告数が再び増加しました。

### 【概況】

横浜市では、2019年第12週(3月18日～24日)以降、定点<sup>※1</sup>あたりの患者報告数は、流行開始の目安となる値(1.00)を下回っていましたが、第16週(4月15日～21日)に市全体で **2.06** となって1.00を上回り、再び患者報告数が増加しています。

学級閉鎖等も第12週以降は報告がありませんでしたが、第16週は4施設(小学校3施設、中学校1施設)から報告がありました。

お子さんや高齢者の感染予防、各施設での持ち込み防止や感染拡大防止対策を徹底しましょう。

今シーズンの迅速診断キットの結果は、これまでA型の報告が99%以上を占めていましたが、第8週あたりからB型が増加し、第16週はA型39.3%、B型60.7%となり、B型が多くなっています。

また、今シーズンの市内のウイルス分離・検出状況は、AH1pdm型、AH3型が多く、B型はほとんど分離・検出されませんでした。第14週以降は、B型(ビクトリア系統)が多く分離・検出されています。

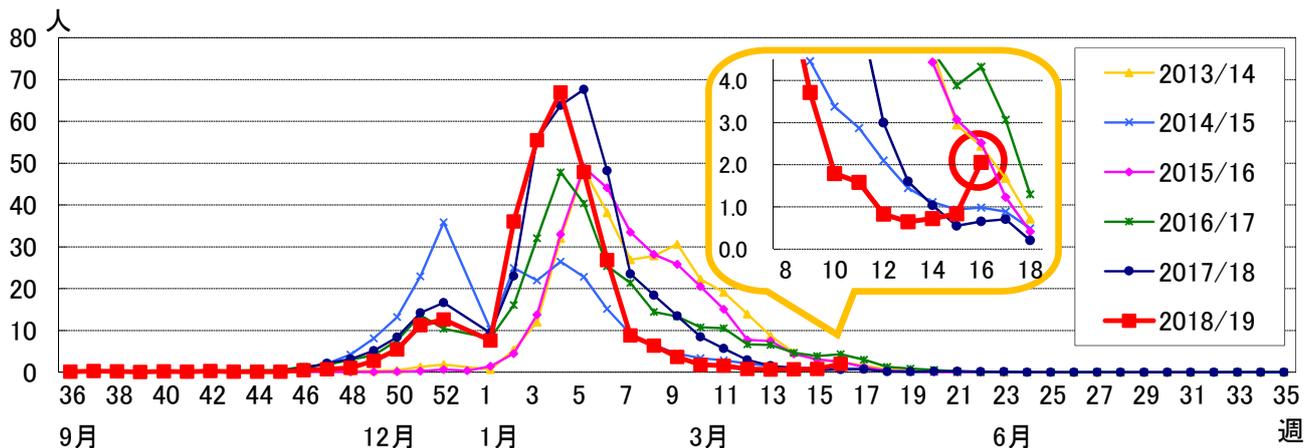
インフルエンザ患者報告数が増加しているため、正しい手洗い<sup>※2</sup>等の予防、咳が出る時のマスクの着用及び早期受診などの対策<sup>※3</sup>が重要です。

※1 定点とは、定期的にインフルエンザ患者発生状況を報告していただいている医療機関(市内153か所)のことで、そこから報告された患者数の平均値が定点あたりの患者報告数です。

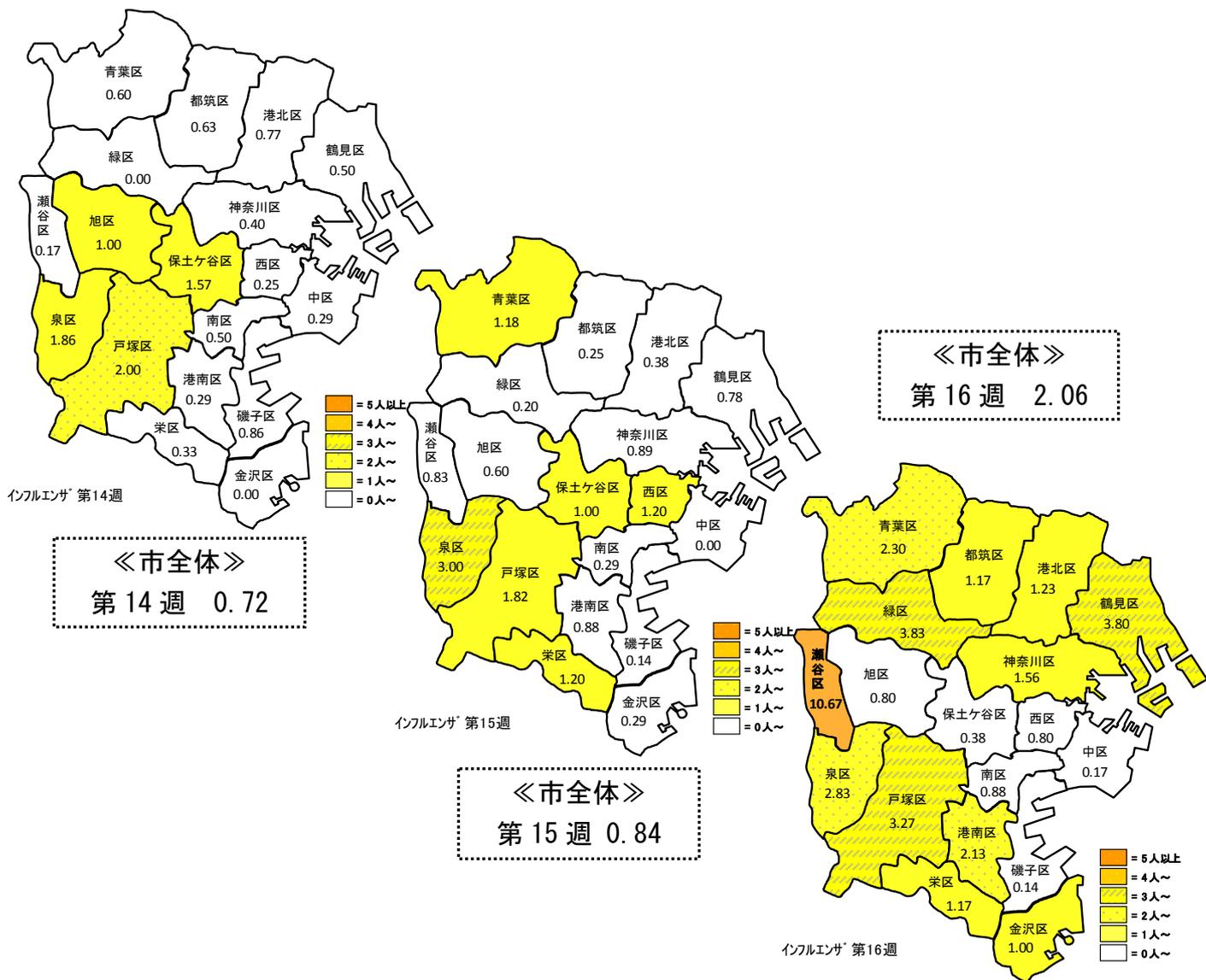
※2 [横浜市保健所ホームページ](#)(「正しい手洗い方法」および、掲示用ポスター「石けんで『手』を洗おう」、チラシ「咳エチケット」をトップページに掲載しておりますので、是非ご活用ください)

※3 [市民向けインフルエンザ予防チラシ\(横浜市\)](#)

**1 市内流行状況:**市全体の定点あたりの患者報告数は、第12週以降、流行開始の目安となる1.00を下回っていましたが、第16週(4月15日～21日)にて2.06となり、1.00を上回りました。

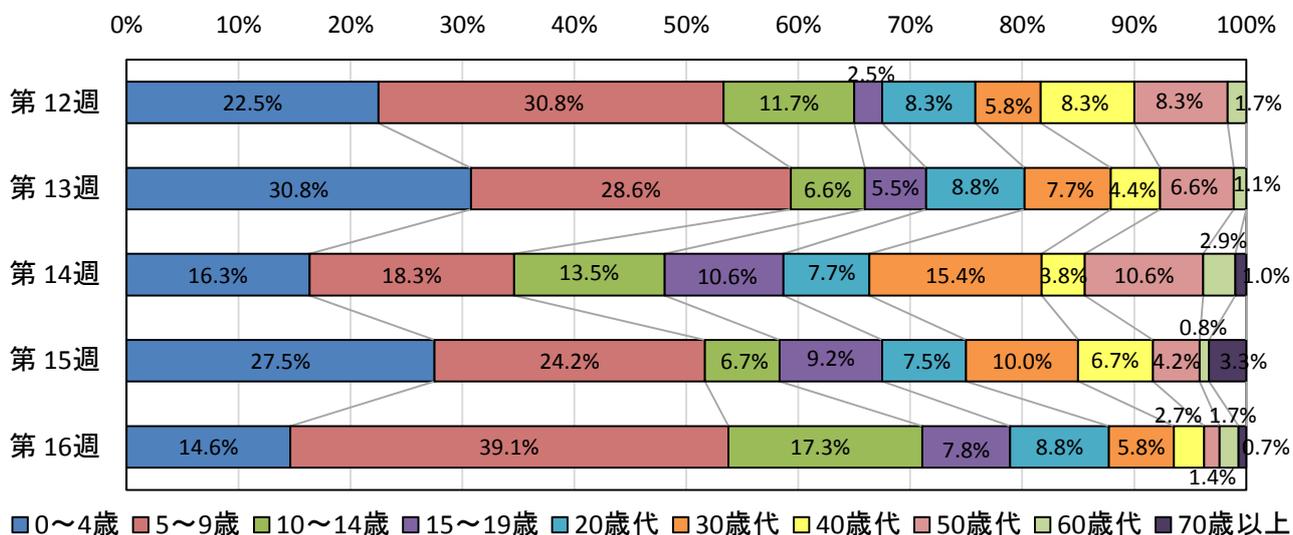


## 2 地図で表した直近3週間の区別流行状況(塗り分けの数字は定点あたり報告数)

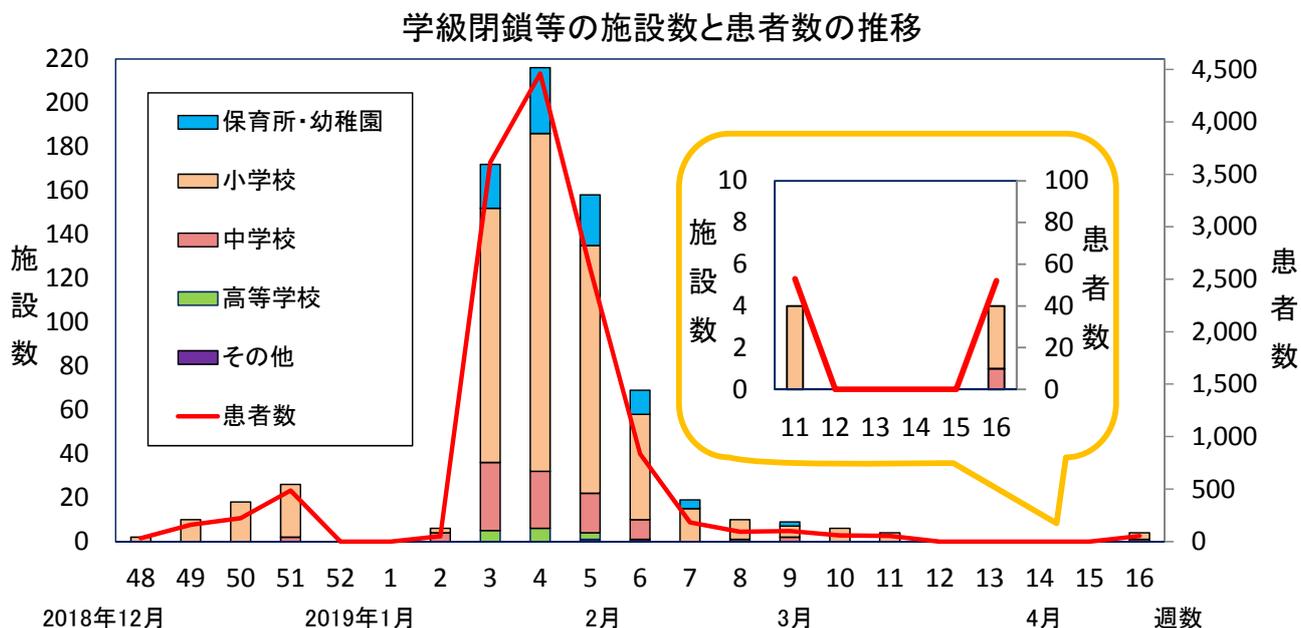


3 年齢層別集計:第16週の患者年齢構成は、5歳未満が14.6%、5歳から10歳未満が39.1%、10歳から15歳未満が17.3%となっており、10歳未満が全体の53.7%、15歳未満が全体の71.1%を占めています。

年齢層別患者割合

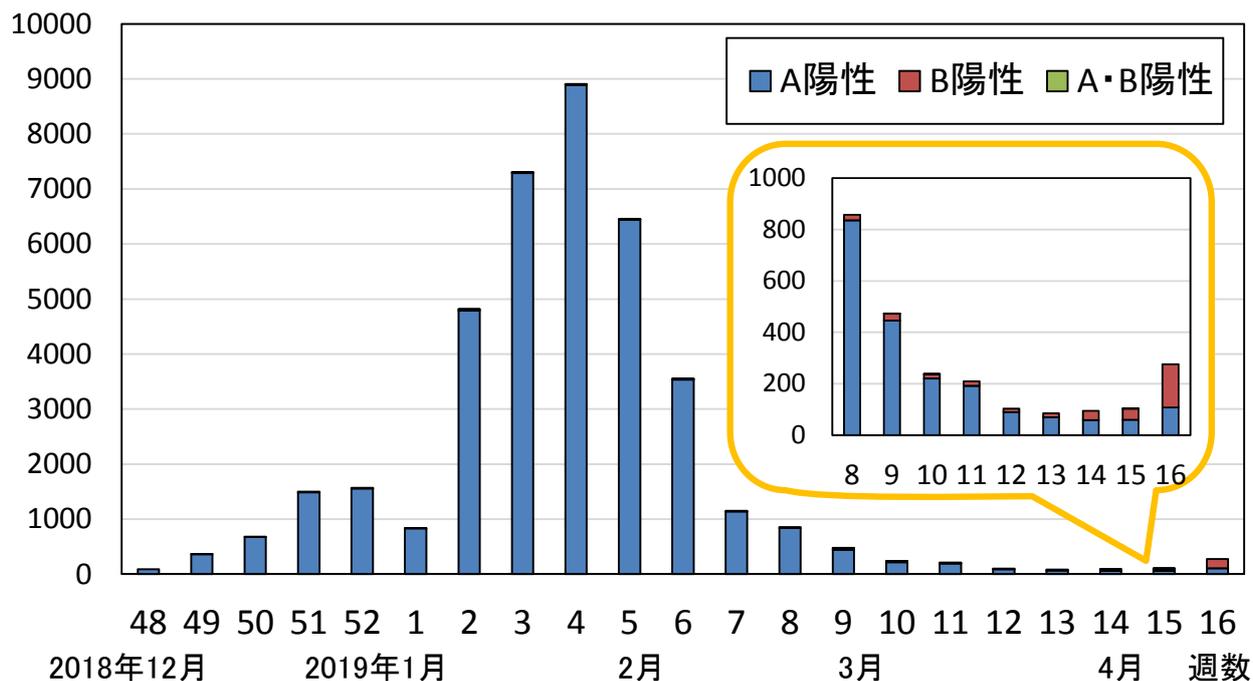


**4 市内学級閉鎖等状況:**学級閉鎖等は、第 12 週(3 月 18 日～24 日)以降は報告がありませんでしたが、第 16 週(4 月 15 日～21 日)にて 4 施設(小学校 3 施設、中学校 1 施設)、患者数 52 人が報告されました。



**5 迅速キット結果:**今シーズンは A 型が 99%以上を占めて推移してきましたが、第 8 週頃より B 型の占める割合が増加し始め、第 16 週の迅速キットの結果は、A 型 39.3%、B 型 60.7%となり、A 型と B 型の割合が逆転しました。

横浜市の患者定点医療機関における  
迅速診断用キットによる型別の報告数(人)



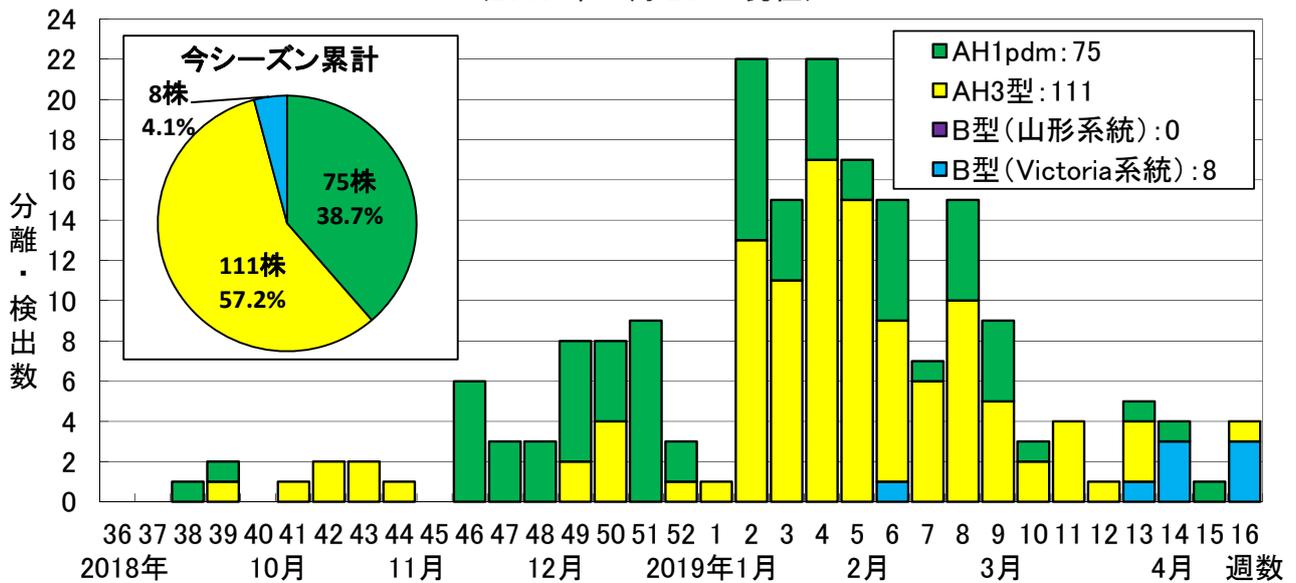
**6 市内病原体検出状況:**市内では病原体定点<sup>※4</sup>から AH1pdm 型(75 株)、AH3 型(111 株)、B 型(ビクトリア系統)(8 株)が分離・検出されています。2018 年は AH1pdm 型が多く分離・検出され、2019 年に入ってから AH3 型が多く分離・検出されるようになり、2019 年 4 月以降は B 型(ビクトリア系統)が多く分離・検出されています。

※4 病原体定点:採取した検体を衛生研究所に送付する医療機関で、市内に 17 か所あります。うち、インフルエンザについては 12 か所にて採取されています。

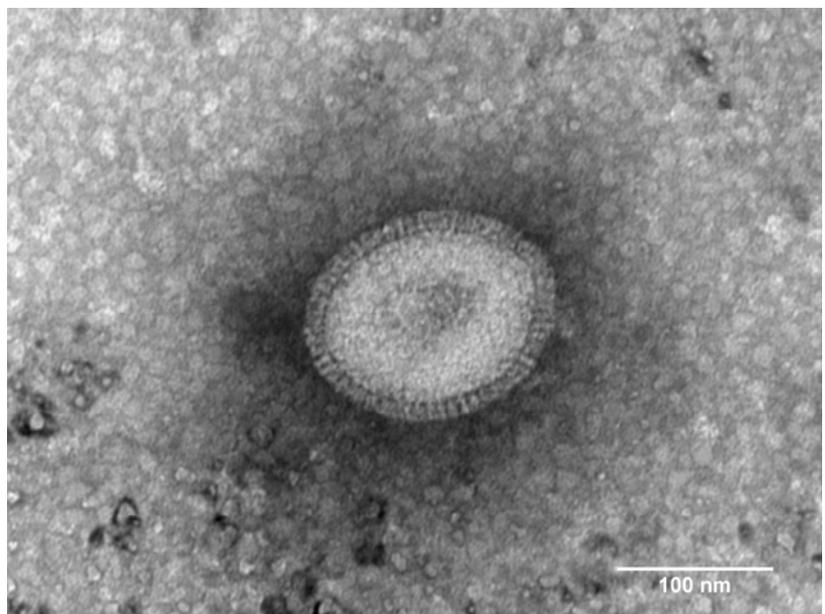
(参考)[インフルエンザウイルス分離・検出報告数\(国立感染症研究所、2019 年 4 月 23 日作成\)](#)

### 市内病原体定点からのインフルエンザウイルス分離・検出状況

(2019 年 4 月 23 日現在)



インフルエンザウイルスの電子顕微鏡写真(6万倍)



撮影:  
横浜市衛生研究所

※参考リンク 近隣自治体の流行状況 ○[神奈川県](#) ○[川崎市](#) ○[東京都](#)  
全国の流行状況 ○[国立感染症研究所](#)

【お問い合わせ先】 横浜市衛生研究所感染症・疫学情報課 TEL 045(370)9237  
横浜市健康福祉局健康安全課 TEL 045(671)2445